

国際協力Ⅱ

国際協力の実際

日時：平成23年9月25日（日） 10:00～12:00

講師：野田 直人（有限会社 人の森 代表取締役）

概況



◎国際協力の実際

- ・30年間海外協力にかかわってきた。林業技術から入ったが、重要なのは人であり、林業の範囲では成果が出せないと気付いた。
- ・植林や森を守ることが目的ではなく、地域開発（生活の安定、豊かさ）とグローバルイシュー（地球規模の課題）が目的。
- ・森は技術・制限では守れない。社会経済が強く影響し、住民との関係に力をいれるようアプローチを変えないといけない。JICAの林業プロジェクトも林業以外のこと、地域のニーズを重視している。住民生活と合せトータルに見ないと変化しない。
- ・森と人の関係は場所によって異なる。国際協力は技術より社会経済を見ないとうまくいかない。植林労働が現金収入で木が育つと火をつけるというような事例もあった。
- ・日本人は砂漠に木がないことはいけないことと思うが、遊牧民はそれに対応した生活をしている。砂はたいしたことはない。それより生産性が落ちること、家畜の草がへることがこまる。認識のギャップがある。
- ・地球環境問題に現地に関心はない。現地にどういう意味があるか。
- ・里山は生活と一致し持続性が維持。しかし特定の文化に依存するシステムを持ち込むのは意味がない。
- ・気づきが成果への近道。経験がなくわかるのは難しい。
- ・高い技術より超ローコスト、ローテクの方が効果がある。

（生存率80%の苗木植栽（灌水等の管理が必要）より、生存率20%の直播（現地の人が簡単にできコストがかからない）の方が結果的に適応する）

・NGOの活動も費用対効果、コスト意識が必要。改善意識がないと結果的に機会損失を与える。